

WWW サーバを利用した史跡紹介システムの試作

－ 歴史学の教材と観光案内の観点から －

植 村 芳 樹

Producing the Presentation System for Historical Sites on WWW

－ CAI and Sightseeing －

Yoshiki UEMURA

1. はじめに

義務教育機関と高等教育機関の歴史学の教材として WWW サーバを利用した史跡紹介システムを試作したので、それを報告する^[1,2]。特に、このシステムは歴史学の神話教育の教材として開発した。ギリシャと日本にしかない神話について、広く現代の生徒・学生諸君に触れてもらうことを目標としている。日本の神話の代表である「古事記」と「日本書紀」の信憑性はともかくとして、今尚続く神社信仰の神髄に生徒・学生諸君のみならず、全世界の人々に興味を持ってもらうことが目的である。

また、現代の神社・仏閣は観光性が非常にきつくなっている。我々が作成した「比叡山」の紹介においても、「比叡山観光ツアー」の中には、日吉大社（旧名 比叡神社）は組み込まれており、観光バスがおおらいする場所である。これは、「比叡山」のみならず奈良市内観光ツアーの中には「春日大社」が組み込まれ、連日大勢の観光客が観光バスに乗って訪れる。また、日吉大社は、参拝料（¥300）また、「春日大社」は駐車料（¥1000）を参拝者と観光客の区別なく取っているのは事実である。著者の専門は、「経営科学」であるため、参拝者と観光客の区別を付けるべきではないかと考えている。たとえば、日吉大社の場合は、「西本宮と東本宮のどちらに先に参拝されますか？」というような質問をしてみたり、「春日大社」の場合は、「本殿と若宮のどちらを先に参拝されますか？」というような質問を訪問者にすることによって、「単なる観光客か、参拝者か？」が自明となる。このようなちょっとした工夫を考えてもらいたいものである。

本史跡紹介システムは、「鈴鹿地方」、「熊野地方」、「櫻井地方」と「比叡山」の4つの構成からなっており、現段階では、「鈴鹿地方」と「比叡山」しかできておらず、本年度中には、「熊野地方」と「櫻井地方」が完成する予定である。本史跡紹介システムが完成した後に、宗教学的観点からの考察も含めた論文を三重大大学教育学部研究紀要（人文・社会科学分野）に投稿する予定である。従って、本論文では、宗教学的考察まではしない。2章では鈴鹿地方^[1]、3章では比叡山^[2]の史跡紹介システムの概要を述べる。

2. 鈴鹿地方

椿大神社（つばきおおかみやしろ）は、三重県鈴鹿市山本町にあり、伊勢平野を見下ろす鈴鹿山系中央に位置する高山（入道ヶ嶽）短山（椿ヶ嶽）を天然の社としている。主神は猿田彦大神であり道案内、道路交通の神、地鎮祭、建築の神徳ありとし俗に道祖神と言われている。この神は高位の神であるのに神系不詳、事蹟又僅少である故に歴史的に詳しく調べてみる価値があると思われる椿大神社をホームページを利用して紹介する^[3]。

我々のスタッフの一人は、三重県三重郡菰野町に住んでおり当社宮と近く、小さいときは毎年写生大会に参加したり交通安全の祈禱をしてもらったりと馴染み深い神社であったことより「古事記」をはじめ「日本書紀」「古語拾遺」などに神名が記述されている程の歴史深い椿大神社を題材に史跡紹介システムを構築することにした。

猿田彦大神は伊勢市内にある猿田彦神社にも祭られているが、これは命の六十八世の後神の山田彦命が伊勢国造に任ぜられ、鈴鹿郡内の国府に赴任したことから山田彦命が祖宗である猿田彦命の神霊を少し離れた椿村の山に祀ったことから椿大神社の主神となったとされる。各地域で同じ神が祀られているということは大変興味深いことである。

この史跡紹介システムはあくまで歴史学の範疇を超えるものでなく、宗教学の範疇まで踏み込んではいない。

最後に史跡紹介システムであるために、社会科の歴史学の教材となり、インターネットを利用した CAI と位置づけされる。

2. 1. システム構成

このホームページは約 25 ページで構成されている。まず最初に左側に当社の歴史を中心に 4 項目から選べるようにした。右側に境内案内図があり興味を持ったところをクリックしてもらおうと建物を中心とした説明が見れるようにしてある。主要な史跡に関する写真を取り入れて見やすくするように考慮した。(図1)

2. 2. 考 察

本史跡紹介システムは椿大神社を全世界に紹介するだけでなく、歴史学教育の教材としても充分なものである。また椿大神社が鈴鹿市の重要な史跡であると考えすると、鈴鹿市の歴史のみならず、伊勢国の歴史を古事記の時代から、思い返すことができる。

また、椿大神社が猿田彦大神の総本宮であるため全国に祀られている猿田彦大神に携わる神社の方々に、総本宮の紹介を行うことは大変意味がある。

本システムは歴史学教育教材として開発したため、小、中、高等学校の社会科の教材として役立つ可能性は充分ある。尚、我々は三重大学教育学部のスタッフであるため、神道関連の教材、例えば「参拝者の拝礼の仕方」などの範疇までは踏み込んでいない。

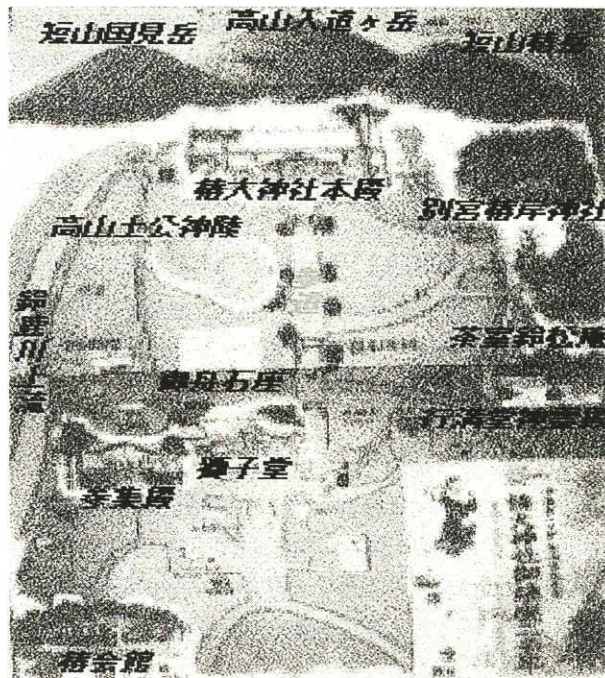
ホームページ作成において、アドビシステム社の PageMill・Photoshop を使用した。

3. 比叡山

日吉大社（旧名 比叡神社）は、滋賀県大津市坂本町にある比叡山の東麓の鬱蒼とした森に

左側は主に具体的な歴史に関して検索でき右側の境内案内は建物にまつわる歴史的考察を中心に検索できる

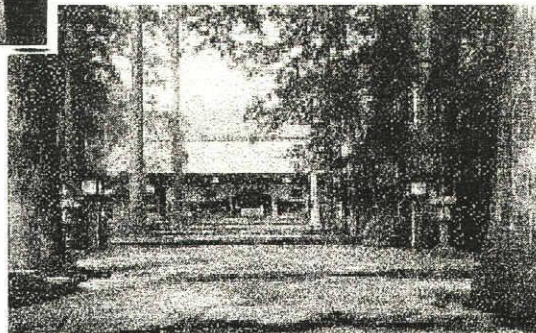
- 椿大神社歴史
- 猿田彦大神
- アメリカ椿大神社
- 特殊神事



上のページをクリックすると図1、図2のような写真が見れ、歴史的由来を読むことができる。



〈図1 別宮〉



〈図2 椿大神社本宮〉

囲まれた、延暦寺の守護神として天皇家にまで信仰されていた。最澄、織田信長、豊臣秀吉などの歴史的にも重要な人物が登場する日吉大社を、ホームページにて全世界にインターネットを通じて紹介する^[4,5,6,7]。

我々のスタッフの一人は、愛知県春日井市近郊に住んでおり、当初は春日井市に関する史跡紹介をする予定であったが、調査する内に、春日井市にある「日吉神社」の総本宮が、比叡山の日吉大社であることが分かり、日本書紀までもさかのぼる歴史深い日吉大社を題材に史跡紹介システムを構築することにした。

この史跡紹介システムの作成は、あくまで歴史（史跡）学の範疇を越えるものではなく、宗教学の範疇までは踏み込んではいない。

また、大津市の史跡というのみならず、全国にある「日吉神社」の総本宮であるため、全国各地で「日吉神社」に携わる方々にも、総本宮の概要を紹介するのは大変意味深いことである。

最後に、史跡紹介システムであるため、社会科の歴史学の教材となり、インターネットを利用したCAIと位置づけられる。

3. 1. システム構成

このホームページは約30ページで構成されている。まず始めに「境内の案内図」が現れる。ここからは、視聴者に興味を持ったところをクリックしてもらい、「日吉大社の旅」が始まる。西本宮・東本宮などの主要な宮の他、言葉の説明なども写真・絵を用いて、どの年代の人にも楽しんでもらえるように配慮した。(図2)

3. 2. 考 察

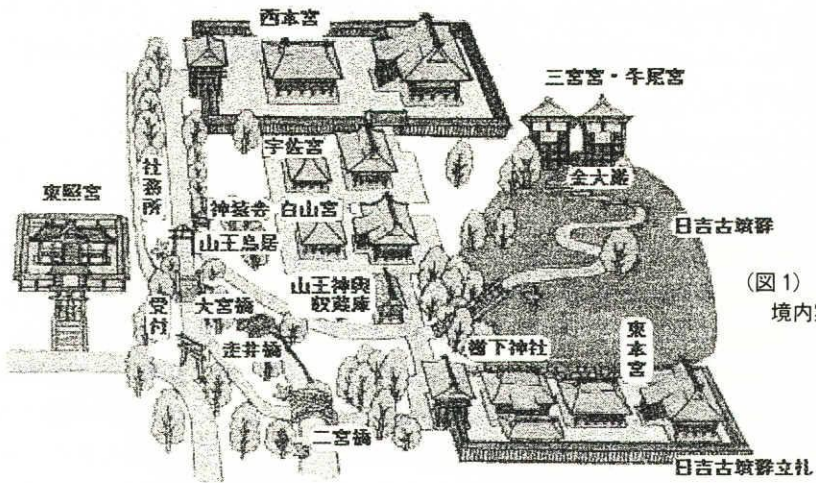
本史跡紹介システムは、比叡山を全世界で紹介するだけでなく、歴史学教育の教材としても、十分なものである。また、日吉大社が、大津市の重要な史跡であることを考慮すると、大津市の歴史のみならず、近江の国の歴史を日本書紀の時代から、遡って思い返すことができる。もちろん、大津市の重要な観光案内としても十分に役立つものである。

本システムは、歴史学教育教材として開発したため、小・中・高等学校の社会科の教材としても役立つ可能性は十分に考えられる。なお、我々は三重大学教育学部のスタッフであるため、神道関連の教材、例えば「参拝者の拝礼の仕方」や「新人神主の行儀作法」等の範疇までは踏み込んでいない。

ホームページ作成においては、アドビシステム社のPageMill・Photoshopを使用した。

4. 失敗と反省

我々は、情報教育講座社会情報コースに所属するスタッフである。このシステムの欠点は、「観光色」と「歴史学の教材色」の色が付いていないものとなってしまったことにある。「観光色」を強めるなら、写真中心にすべきであり、その史跡への交通手段等を詳しく紹介すべきである。しかしながら、この写真中心の史跡紹介システムでも、小学校の社会科の教材としては十分に役立つものではないかと考えられる。また、高等教育機関の共通教育の教材としては、不十分であり、教育学部社会教育コースの史跡学を学んだ者でないと、我々のにわか勉強では土台無理な話である。従って、本史跡紹介システムは、高等学校の日本史の教材となってしまっ

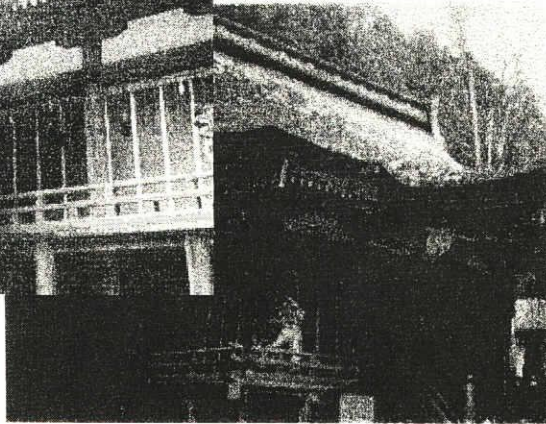


(図1)
境内案内図



(図2)
西本宮

(図3)
東本宮



(図4)



二宮橋下方にある大政所を宵宮場として、牛尾宮と三宮神社の二基の神東本宮、樹下神社の神輿が移動する。

た。CAI システムを開発する場合の焦点の絞りが明確でなく、小、中、高、共通教育のどの教材にするのか、最初から絞れば良かったということが反省材料である。この反省もあり、「熊野地方」に関しては、小学校の社会科の教材を「櫻井地方」に関しては、共通教育の教材を作成する予定である。

5. 真の狙い

4 章では、失敗と反省について述べた。しかしながら、観光色や教材色というよりも、ここで紹介する史跡に興味を持ってもらい、神話の世界に案内するきっかけを与えることが、真の狙いである。この案内をきっかけとして、「古事記」や「日本書紀」を講読してもらい、ギリシャと日本にしかない神話に触れることにより、日本という国を改めて認識し、日本の国を愛する人種になってもらい、『日本人としての誇りを持ってもらう。』ことが、我々の願いである。ここで、誤解がないよう述べておくが、『民族運動』を起こすような目的は全くなく、逆にたとえ英語が話せなくとも、世界の人々と心で話しかけられる社会人育成の足がかりと考えている。インターナショナルの今日では、世界の人々の信用を得るには、『日本人である誇り』を持つことが不可欠であると考えている⁸⁾。

6. おわりに

本史跡紹介システムについての歴史学の教材と観光案内の観点からの考察を行った。この教材は、歴史学でも非常に難しい範疇の教材であり、神話の信憑性の問題が多々ある。例えば、日吉大社（旧名 比叡神社）の場合、加茂一族の古墳群があることは自明の事実であり、東本宮に祭られている加茂一族の荒魂については、ある程度説明がつくが、西本宮に祭られている神々が、大和の国の一の宮からこられたことに対しての証拠になるものが、神話にしかないことは事実であり、信憑性に関しては、「神話を信じるか信じないか？」の問題となる。従って、神話の事実に根拠を探究するため「考古学」という学問があり、現段階でも歴史学の中で探究中の分野である。

最後に、本史跡紹介システムを見ていただいた方に『歴史的ロマン』を抱いていただくことを切望する。

【ホームページアドレス】

uemura@ie01.edu.mie-u.ac.jp

【謝 辞】

本史跡紹介システムを作成いただいた陣田、田島各氏並びに親切にご指導いただいた日吉大社、椿大神社の社務所の方々に深謝します。

【参考文献】

- 【1】植村芳樹、陣田千華：WWW サーバを利用した史跡紹介システムの構築（その1 椿大社）、教育システム情報学会第23回全国大会、1998

- [2] 植村芳樹、田島礼子：WWW サーバを利用した史跡紹介システムの構築（その2 日吉大社）、教育システム情報学会第23回全国大会、1998
- [3] 椿大神社二千年史、1997. 10月11日発行、株式会社たま出版、著者：山本行隆、発行者：瓜谷綱延
- [4] 必携日本史用語、実況出版株式会社、著作者 日本史用語研究会、発行者 横尾武輔
- [5] 社会科資料集6年、株式会社光文書院、1987、編者 光文社会科学習資料研究会、発行者 長谷川 凱久
- [6] 延暦寺から、日吉大社を歩く、比叡山歴史の散歩道、1995、編者 講談社、発行者 野間佐和子
- [7] 日吉ばなし、日吉大社の謎、著者中井国重、監修・協力 日吉大社社務所・村田清行、1981
- [8] 植村芳樹：意思決定の立場からのファジィ事象の概念とその応用、三重大学教育学部研究紀要第48巻、平成8年